

私には父方の従兄弟が二人、母方の従兄弟が四人います。しかし、六人全員が普通に学校へ通い、また、社会人として働いているわけではありません。何故かという、六人のうち今年二十歳になる従兄弟には「ダウン症候群」という障がいがあります。

ダウン症候群とは、体細胞の二十二対ある染色体の中で二十一番目の染色体だけが、二本組ではなく三本組になっていることによって引き起こされる障がいのことです。その従兄弟の名前はS君といい、みんなはSちゃんと呼んでおります。Sちゃんは、自分ことは自分で何でも出来ますが、上手く話すことが出来ません。また、言葉は話せても二歳児レベルの話しか出来ません。私がSちゃんに話しかけると、私の話を理解してくれているようなのですが、Sちゃんが私に何を話したいのかがわからなくて、本当に申し訳ないと思うことが時々あります。

私が小学校に入学した頃、Sちゃんがダウン症候群という障がいを抱えていることを母から聞きました。そのことを聞かされるまで、「何故Sちゃんは私よりもお兄さんなのにお話が出来ないのだろう？」とか、「何故話をしている最中に、突然怒って私のことを叩いたり、みんなに物を投げたりするのだろう？」と不思議に思っていました。母から初めてSちゃんのことを聞いた時、「そういうことだったのか。」と納得しました。

Sちゃんは自分の言いたいことを上手く伝えることが出来ず、イライラしていたのだと思いました。私が小学校三年生くらいの時、Sちゃんは意味もなく突然私の腕をつねってきました。その時、Sちゃんにとってつねるのがクセだったようで、父や母、祖父母に対しても同じ様に笑いながらつねっていました。その時のSちゃんの力はとても強く、痛かったことを覚えています。しかし、Sちゃんは自分のお母さんのことだけはつねっていませんでした。

祖母から「Sちゃんはお母さんのことが大好きだからお母さんのことはつねらないのよ。」と聞かされました。その時、私はSちゃんはお母さん以外の嫌いな人全員をつねっているのか、友達のことをつねっているのか、と思いました。その直後、母がSちゃんにつねられました。母はSちゃんを見て、「つねることは痛いことだ。」と注意しました。私は、その時の母が少し怖く感じたので、「Sちゃん泣いちゃうかも。」と、ドキドキしながら様子を見ていました。しかし、Sちゃんの反応は私の想像していたこととは全く違うものでした。母に対して「ね。」と言って頭を下げていました。Sちゃんは、「ごめんね。」が上手く言えないので「ね。」と言います。その後、父や祖父母、私にも「ね。」と頭を下げてくれました。

家に帰る途中、車の中で母に「どうして私に怒る時と同じ様に叱ったの？」と聞くと、母は、「障がいを持っているからといって、普通の子と同じように目を見て教えてあげないといけないのよ。」言われたことを覚えています。この時私は、障がいを持っている人に対しても普通に接しないといけない、壁を作ってはいけないと思いました。

Sちゃんがダウン症候群ということを知る前までは、急に叩かれたりしたこともあり、怖くて距離を置いていたような気がします。しかし、この感話を書いて改めてSちゃんとしっかりと向き合おうと思いました。また、Sちゃんのように障がいを抱えている方々ともしっかりと向き合おうと思います。